

夢を信じて

第12回

日立ソフトボール部

那須 千春選手

姉の部活について行って真似をするのが好きで

— ソフトボールを始めたきっかけは？

那須 姉がソフトボール、兄が野球、そういう家庭に生まれて、気がついたらボールを持っていたという感じでした。7歳離れている姉の部活について行って真似をするのが好きで、あの選手はこうだよねとか、構えがこうだよねって真似ばかりしていました。「ソフトボールマガジン」という本が出ていたんですけど、その本が大好きでしたね(笑)。

— そういうふうな真似をするってすごく大事だと言いますよね。

那須 そうですね。姉がインターハイに出場した時も応援に連れて行ってもらったり、小さい頃から、すごくいいものを見せてもらってただだなんて思います。

— 声すげー出ているじゃないですか、試合って。それこそ出ていない選手も含めて一体になって。声とか迫力とか、やっぱりびっくりしました？

那須 カッコいいって思いましたね。

— 小さい頃のヒーローってというか、憧れの存在は？

那須 姉です。一緒にキャッチボールしたり、姉の存在はすごく大きいです。

— 那須さんのように、ソフトボールを始めてくれる子がいるといいですね。

那須 姉について行っていろいろなものを見て、姉が実業団に入ったら今度は初めて実業団の試合を見て、「これが1部リーグのレベルなんだ」と。だから私も中学生の時に「将来は実業団でやりたい」と思って、その目標を考えて上山明新館高校に進学しました。

— いいチームですよ。那須さんが一番バッターだった2014年の高校総体。不運な判定のあと、選手みんながまとまって反撃した試合は本当に感動しました。その上山明新館で有住先生に出会ったんですね。

那須 今、足を上げて打っているんですけど、それを教

あなたが子どもの頃に抱いた夢は？ アスリートが子どもの頃に見ていた夢、そして夢を持つことの大切さを語る「夢を信じて」。インタビュアーはコラムニストのえのきどいちろうさん。今回のインタビューゲストは、日立サンディーバ(日立ソフトボール部)の那須千春選手です。

えてくれたのが有住先生です。

— ソフトボールはピッチャーとバッターの距離が近いので忙しいですよ。

那須 私も野球みたいに大きく足を上げてたら間に合わないって思ってたんですけど、タイミングさえとれば、パワーがボールに伝わって飛距離が伸びるからって。— どういう練習を？

那須 最初からいきなり足を上げたわけではないんです。徐々に段階を踏んでいって最終的にはこうなるんだよと示してくれました。足を上げる動作を分解して「分からなくなったらここからもう一度だよ」と教えてくれました。今になって思うんです、戻る場所を教えてくださいました。



「山田さん、西山さんがいる日立に」って決めていました

— 日立へは？

那須 有住先生から何チームか実業団チームを紹介されて、それを聞いた瞬間に私のなかでは「山田さん、西山さんがいる日立に」と決めていました。

— 入部して、実際お会いしてどうでしたか？ うれしかったです？

那須 最初はもう夢みたい。山田さんがいて、西山さんがいて。選手名鑑でしか見たことない人がたくさんいて。そのなかでプレーできることもベンチにいることさえうれしかったです。

— 声かけてくれたりした？

那須 西山さんからは「守備は足だよ、フットワークだよ、無駄な力とはとにかく抜いて」と言われながらノックを受けました。「守備はやった分だけ上手くなるから」と取り足取り。山田さんは外野手なので、なかなか機会がなかったんですけど、何気ないことでもよく声を掛けてくれました。

— その山田選手以来というベストナインと新人賞のダブル受賞の1年目になったわけですね。

那須 日立に入って1年目は結果はあまり考えてなくて、試合に出られること、あのメンバーのなかで出られることを素直に楽しんでました。結果的にはそれがよかったんだと思います。やっぱり打球の速さも違うし、足の速さも違う。ピッチャーも外国人で、最初は驚いてたというか、すぐには対応出来なかったです。ついていけないから私はただグラウンドでできることだけをやっていた。そんな感じでした。

— すっげー！ みたいのはゾクゾクするというか面白いですよ、それは間違いはないですよ。

那須 2年目の今はずっと5番ショートですから、自分にプレッシャーをかけて、私が結果を出せばチームは勝つんだと強く思ってやっています。チームが日本一になるために打ちたいし守りたい、チームの為にプレーしたいと思っています。

今、何をしなくちゃいけないのかっていうのを、ひとつひとつやっていきたい

— 代表への思いは？

那須 日立の那須としての結果がすごく大事になってくると思うんです。今を大事にしたい、今の積み重ねをつなげて行きたいって。打撃にしても守備にしても結果を考えて動こうとしても、いい結果が出たことがないので。次の一球を仕留めるか。目の前の一球を確実にアウトにするか。今、何をしなくちゃいけないのかっていうのを、ひとつひとつやっていきたいなって思っています。

— すっごい落ち込む時とかないんですか？ 結果でない時とか、切り替えとかどういふふうにするんですか？

那須 私は経験が浅いから引き出しがないので、先輩に相談してます。相談して、自分はここはこうなってると思うんですけど、どう見えますか？ って。

— 手ぶらで聞くんじゃないんですね、自分でもいろんな筋道を考えてみて。これかなっていうのを考えてから聞くん。

那須 矢印が一方向的にならないように。私からまず考えていることを言って…ってようになっています。聞くことも経験ですから。

— 那須さん！ めっちゃしっかりしてる！

PROFILE プロフィール

那須 千春(なす ちはる)選手

ソフトボール選手。1997年1月2日生まれ。岩手県出身。小学2年からソフトボールを始める。上山明新館高時代は、1年時からレギュラーとして活躍、2年生からは主将としてチームを牽引。2015年4月、日本女子ソフトボールリーグ1部の日立ソフトボール部へ入団すると、リーグ戦・開幕スタメンを果たし、初打席でタイムリーを放つ鮮烈デビューを飾る。そのまま1年目は全試合に出場、山田選手以来となる新人賞とベストナインのダブル受賞に輝いた。中学3年時にU-16日本代表メンバーに名を連ねて以来、年代別日本代表としても活躍。2020年開催の東京オリンピックで復活が決定したソフトボール競技の日本代表入りを目指す。

取材を終えて

那須千春選手は所属の日立ソフトボール部のライジングスターだ。高卒ルーキーとして挑んだ昨シーズン、何と3割9分4厘、本塁打7本の大活躍だ。2020年東京オリンピックで正式に復活が決まったソフトボール競技では代表入りが期待されている。

印象に残ったのは目標をまっすぐフォーカスする、その熱量のよなものだ。僕がこれまで取材したなかでは、大谷翔平(北海道日本ハムファイターズ)にそっくりだ。



今回のインタビューをテーマにしたコラムが横浜スポーツ情報サイト「ハマスポ」でご覧いただけます。併せてご覧ください。

えのきどいちろうの横浜スポーツウォッチング vol.51 「ライジングスター」 URL <https://www.hamaspo.com/enokido/vol-51>

